

(1) 実務経験のある教員等による授業科目の配置 関係

担当教員名	授業科目名	単位数	配置学部 または学科	授業内容 (どのような経験を持ち、どのような授業を行うか)
宮本 直樹	人間の尊厳と自立	2	介護福祉学科	介護福祉士国家資格を取得し、介護現場で高齢者介護にかかわってきた経験を活かし、人間としての尊厳の保持と自立支援の必要性や、介護場面における倫理的課題に対応できる基礎的能力を教授している。
谷本 絵里奈	人間関係とコミュニケーション	2	介護福祉学科	介護福祉士国家資格を取得し介護現場での対人援助の経験により、人間関係形成のうえで必要な基本的コミュニケーション能力と、介護実践において重要な人間関係形成能力を高めるための講義を実施している。
谷本 絵里奈	社会の理解Ⅰ	2	介護福祉学科	社会福祉学科で習得した知識と介護福祉士としての現場経験を活かし、社会保障の目的、しくみ、人間の生活と社会のかかわりや、自助から公助に至る過程をわかりやすく講義する。
谷本 絵里奈	社会の理解Ⅱ	2	介護福祉学科	社会福祉学科で習得した知識と介護福祉士としての現場経験を活かし、高齢者・障害者保健福祉制度のしくみやサービスの内容などをわかりやすく講義する。
汲田 幸世	音楽	1	介護福祉学科	音楽大学卒業後、講師として中高等学校の音楽を担当し、ボランティアで声楽指導する傍ら福祉施設を慰問し歌を披露している。その経験を活かして施設利用者の馴染みある童謡や流行歌を教え、余暇活動の充実をはかる技術を教示している。
岡村 真雄	日本語表現Ⅰ	2	介護福祉学科	国語の教諭免許を持ち、高等学校で35年間教鞭とってきた経験を活かし、福祉専門教科の学習や実習を円滑かつ効果的にするために「書く」「読む」「伝える」知識を身につけ、思考力や想像力を伸ばすよう教育する。
岡村 真雄	日本語表現Ⅱ	2	介護福祉学科	小社会ノート等を活用し、現在の社会の状況を理解するとともに、様々な人の文章表現の方法を知り、思考力や想像力を伸ばすよう教育する。
宮本 直樹	介護概論A	4	介護福祉学科	介護福祉士として高齢者入所施設や在宅福祉分野で業務にかかわった。その経験を活かし、介護福祉士の職業倫理を軸に、介護対象者等の生活理解をふまえ尊厳の保持、自立に向けた介護実践のあり方を教授している。
宮本 直樹	介護概論B	2	介護福祉学科	介護福祉士として高齢者入所施設や在宅福祉分野で業務にかかわった。その経験を活かし、介護の専門職としての職業倫理に基づいた介護、根拠に基づいた介護、個別ケアの重要性を教授している。
宮本 直樹	介護概論C	2	介護福祉学科	介護福祉士として高齢者入所施設や在宅福祉分野で業務にかかわった。その経験を活かし、介護福祉士の職業倫理を軸に、多職種や地域との連携、介護における安全とリスクなどについて理解するよう教授している。
岡部 孝生	リハビリテーション論	2	介護福祉学科	理学療法士の資格を持ち、医療現場で実務を積み、現在、リハビリテーション養成の大学講師として教授している。リハビリテーションの理念と概要を理解したうえで、リハビリテーションにおける介護福祉士の役割を学ぶ講義を行っている。
土居 清彦	災害救護	1	介護福祉学科	日本赤十字社に所属し県内外、海外での救急法講習活動に従事。災害発生時(地震、集中豪雨等)には、救護・復旧活動に参加。以上の経験を活かし、介護福祉士として各種災害に対応できる能力、技術を修得するよう指導している。

担当教員名	授業科目名	単位数	配置学部 または学科	授業内容 (どのような経験を持ち、どのような授業を行うか)
野村 晃江	コミュニケーション技術A	1	介護福祉学科	介護福祉士の資格を持ち、障害者、高齢者介護に従事してきた経験を活かし、介護におけるコミュニケーションの役割や、利用者・家族との信頼関係の構築、多職種との良好なコミュニケーションのあり方を習得できるよう教授している。
野村 晃江	コミュニケーション技術B	1	介護福祉学科	介護福祉士の資格を持ち、障害者、高齢者介護に従事してきた経験を活かし、利用者の特性、介護場面に応じた援助的コミュニケーションの方法習得にむけて教授している。また、非言語的コミュニケーションの実際を音楽講師と連携して福祉施設で体験により学ぶようにしている。
谷本 絵里奈	生活支援技術A (家政学)	2	介護福祉学科	介護福祉士の資格を持ち、障害者、高齢者の生活を支援してきた経験を活かし、生活の自立を軸に、家事援助に必要な基本的な知識、技術を習得するよう講義している。
和田 理砂	生活支援技術B (住環境)	1	介護福祉学科	保健師として住民の暮らしを調査した経験と住環境コーディネーターの資格を活かし、生活における住の役割、重要性、社会性の基礎的知識を習得できるこよう講義している。そのうえで、福祉住環境にかかる諸問題を知り、快適な生活環境整備について学ぶようグループワークを展開している。
石川 麻紀	生活支援技術C (調理)	1	介護福祉学科	管理栄養士として、高齢者施設の食管理の経験を活かし、生活における食の文化、意義等の基礎的知識を習得する。そのうえで障害などの特性別の調理、食事支援の技術が身に着くよう授業を行っている。
宮本 直樹 和田 理砂 野村 晃江 西尾 優介 谷本 絵里奈	生活支援技術D (被服)	1	介護福祉学科	医療・福祉分野で高齢者・障害者の生活に直接かかわってきた経験を活かし、生活における衣の文化、意義、社会性等の基礎的知識と衣生活の支援技術の習得をめざした授業を行っている。
野村 晃江	生活支援技術E (介護技術)	3	介護福祉学科	介護福祉士の資格を持ち、障害者、高齢者の生活を支援した経験を活かし、尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出す介護技術を用いて、安全・安楽に援助するための知識、技術が身に着くよう授業を行っている。
前田 真紀	生活支援技術F I (聴覚・言語)	1	介護福祉学科	聴覚・言語障害の基礎的理解を深め、生活をするうえの障壁や必要な支援方法を享受している。手話通訳士の資格を取得して30年以上の経験と、ニュース番組やイベントでの手話通訳をつとめる等、様々な場面で手話を通じて聴覚障害者をサポートしてきた。聴覚障害の理解、聴覚障害者とのコミュニケーションツールとしての手話表現の基礎が習得できるよう指導している。
前田 真紀	生活支援技術F II (聴覚・言語)	1	介護福祉学科	手話通訳士の資格を取得して30年、ニュース番組やイベントでの手話通訳をつとめる等、様々な場面で手話を通じて聴覚障害者をサポートしてきた。聴覚障害者と手話表現によりコミュニケーションをはかる技術の習得をめざし、手話検定試験4級合格をめざし授業を行っている。
野村 晃江	生活支援技術G (知的・肢体・重複)	1	介護福祉学科	介護福祉士の資格を持ち、障害者、高齢者の生活を支援してきた経験を活かし、障害の種類と特性や原因、障害を持つ人の心理と家族関係、介護者の役割、移動支援サービスに関する知識・技術が習得できるよう教授している。また、民間企業の福祉用具コーディネーターと連携し直接、機器の使用方法等について指導をしている。

担当教員名	授業科目名	単位数	配置学部 または学科	授業内容 (どのような経験を持ち、どのような授業を行うか)
金平 景介 野村 晃江 和田 理砂 宮本 直樹 西尾 優介 谷本 絵里奈	生活支援技術H (視覚)	1	介護福祉学科	高知県身体障害者連合会に所属し、長年視覚障害者の生活指導・訓練にかかわった経験を活かし、視覚障害者の理解と視覚障害者への正しい手引き方法と接し方が習得できるよう指導している。
西尾 優介	介護過程A	1	介護福祉学科	生活相談員として高齢者の在宅介護サービスに携わり、個別援助計画を立案・評価してきた経験を活かし、介護過程の意義・目的を理解し、それぞれの過程において必要な知識の習得をめざし講義を行っている。
西尾 優介	介護過程B	1	介護福祉学科	生活相談員として高齢者の在宅介護サービスに携わり、個別援助計画を立案・評価してきた経験を活かし、介護過程展開におけるアセスメント技術(情報収集、解釈・分析・統合、課題の抽出)が習得できるよう授業を行っている。
西尾 優介	介護過程C	1	介護福祉学科	生活相談員として高齢者の在宅介護サービスに携わり、個別援助計画を立案・評価してきた経験を活かし、介護過程Bを踏まえ、利用者個別のよりよい生活・人生を支援するための介護計画の立案、実践できる能力を養うよう教授している。
西尾 優介	介護過程D	1	介護福祉学科	生活相談員として高齢者の在宅介護サービスに携わり、個別援助計画を立案・評価してきた経験を活かし、介護過程とチームアプローチを理解するためのプロセスを通して、介護研究の意義と方法を習得できるよう事例研究を行っている。
西尾 優介	介護過程E	1	介護福祉学科	生活相談員として高齢者の在宅介護サービスに携わり、個別援助計画を立案・評価してきた経験を活かし、介護福祉実習の中で受け持った利用者の介護過程の展開を客観的視点で振り返る。事例研究発表を通してプレゼンテーション力が養成されるよう授業を行っている。
西尾 優介 谷本 絵里奈 野村 晃江 宮本 直樹 和田 理砂	介護総合演習A	1	介護福祉学科	介護福祉実習の教育効果を高めるために、施設の種別や目的、入所条件等について理解を深める。介護記録の意義や実習におけるレポートの書き方を、医療福祉資格習得の課程で学んだノウハウを活かし指導している。
西尾 優介 谷本 絵里奈 野村 晃江 宮本 直樹 和田 理砂	介護総合演習B	1	介護福祉学科	利用者個別のこだわりや生活の違いについて学び、在宅生活を支援する事業や介護福祉士の役割について、在宅、入所施設での実務経験から教授している。
西尾 優介 谷本 絵里奈 野村 晃江 宮本 直樹 和田 理砂	介護総合演習C	1	介護福祉学科	介護福祉士・看護師としての在宅、入所施設での実務経験から、介護福祉士に求められる倫理を再確認し、受容される姿勢、表現力、報告・連絡・相談ならびにチームワークの重要性を教授している。
西尾 優介 谷本 絵里奈 野村 晃江 宮本 直樹 和田 理砂	介護総合演習D	1	介護福祉学科	総合的に利用者の日常生活援助が実践できるよう、これまでの介護福祉実習を踏まえて明確化した課題から「気づき」「追求」「考察」「表現」できる力を、介護福祉教育の課程での学びと福祉施設での経験により指導している。
	介護福祉実習	10	介護福祉学科	様々な生活場面において、他科目で学習した知識、技術を活かし個別ケアの体験及び多職種協働や関係機関との連携を通じてチームケアと介護福祉士の役割を福祉施設職員より指導を受けている。

担当教員名	授業科目名	単位数	配置学部 または学科	授業内容 (どのような経験を持ち、どのような授業を行うか)
林 佳代	発達と老化の理解Ⅰ	2	介護福祉学科	看護師教育の課程及び医療現場での経験から、発達過程ならびに老化によるこころとからだの変化の特徴と日常生活への影響について教授している。
林 佳代	発達と老化の理解Ⅱ	2	介護福祉学科	看護師の教育課程及び医療現場経験から、発達の定義・段階・課題等を踏まえ、老年期に特有の心理的課題や症状・疾病等の支援の留意点について習得できるよう授業を行っている。
西尾 優介	認知症の理解Ⅰ	2	介護福祉学科	認知症高齢者の生活上の障害や心理・行動の特徴を踏まえ、認知症の人や家族に対するかかわり方の基本を教授している。
荒牧 花菜	認知症の理解Ⅱ	2	介護福祉学科	看護師・介護福祉士として認知症介護に携わった経験を基に、家族や社会関係まで含めてアセスメントし、状況に応じた支援方法を導き出す技術が習得できるよう、事例を踏まえて個人・グループワークを行っている。
大坪 奈緒	障害の理解Ⅰ	2	介護福祉学科	理学療法士の資格を活かし、今日的な障害者福祉の理念のもと、様々な障害ゆえの生活上の不具合や心理・行動の特徴を踏まえ、当事者や家族に対する関わり方の基本を講義している。
和田 理砂	障害の理解Ⅱ	2	介護福祉学科	看護師・保健師としての現場経験をもとに、さまざまな障害についての医学的知識の把握を前提に、当事者の障害や環境についてアセスメントし、状況に応じた支援方法を講じている。
和田 理砂	こころとからだのしくみⅠ	2	介護福祉学科	医療現場での看護経験を活かし、生活支援技術の根拠となる人体構造の理解（構造・機能）、生命誕生から老化による心身との関わりを理解できるよう教授している。
和田 理砂	こころとからだのしくみⅡ	2	介護福祉学科	医療現場での看護業務の経験や介護福祉教育の実践経験を活かし、移動・身支度等に関連する身体の機能と構造を理解したうえで、支援方法を理解できるよう教授している。
和田 理砂	こころとからだのしくみⅢ	2	介護福祉学科	医療現場での看護業務の経験や介護福祉教育の実践経験を活かし、入浴・清潔保持・排泄に関連する身体の機能と構造を理解したうえで、支援方法を理解できるよう教授している。
和田 理砂	こころとからだのしくみⅣ	2	介護福祉学科	医療現場での看護業務の経験や介護福祉教育の実践経験を活かし、排泄・睡眠・終末期に関連する身体の機能と構造を理解したうえで、支援方法を理解できるよう教授している。
和田 理砂	医療的ケアⅠ	2	介護福祉学科	看護師としての経験を活かし法制度や倫理等をふまえた医療的ケアの基礎的知識について把握したうえで、感染予防の理論と実践、急変時や事故発生時の対応などもふまえた喀痰吸引等について指導している。
和田 理砂	医療的ケアⅡ	2	介護福祉学科	介護福祉士として必要な医療的ケアの倫理性をもって、喀痰吸引や経管栄養の方法を安全かつ安楽に実施するための基礎的知識・実施手順、手技が習得できるよう指導している。
野村 晃江	地域福祉論Ⅰ	1	介護福祉学科	地域貢献や介護福祉教育に携わった経験から、地域社会における福祉の課題の把握、課題解決の取り組みとして、まずは学生達が自分の住んでいる地域を知り、まとめ、発表を通して住民の一人であるという自覚を持つことができるよう教授している。また、レクリエーション支援の目的、具体的方法についても体験を通して理解できるよう指導している。
野村 晃江	地域福祉論Ⅱ	1	介護福祉学科	地域における絆づくりの実際を理解するために、対象者によって異なる心の元気づくりの方法としてレクリエーション活動・福祉サービスについて理解できるよう指導している。また、点字図書を作成し点字図書館に寄贈している。